

# 第7回 北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

## 会 議 録

1. 会議名 第7回北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

2. 開催日時 平成26年10月8日（水） 午後2時～午後3時15分

3. 開催場所 北杜市役所 西会議室

4. 出席者（敬称略）

出席委員：大山 勲、原かつみ、三井 茂、千野 憲治、小林 健展、輿水 順彦、清水 壽

昌(代理)、小池 明智、小幡 宏、乙守 和人、中村 学、菊原 忍、田中 幸男

欠席委員：雨宮 正行、室田 泰文、古屋 賢仁、利根川 昇、井口 哲郎、長坂 正

事務局：神宮司建設部長、清水建設部次長、土屋道路河川課長、道路河川課維持管理

担当 中田

会議録署名委員 三井 茂、千野 憲治

5. 議題

① 開会

② 委員長挨拶

③ 議事

(1) 中部横断自動車道事業説明

(2) ワークショップ実施方針（案）について

(3) ワークショップ等実施スケジュール（案）について

(4) その他

④ 閉会

6. 公開・非公開の別 公開

7. 傍聴人の数 7名

## 8. 審議内容（司会進行：事務局）

### 1 開会

- ・事務局より開会の挨拶

### 2 委員長挨拶

- ・まちづくりビジョンで枠組みを示した。今後、具体的な話を詰めていく。意見を広く丁寧に聞くためワークショップを実施していくことになる。

### 3 議事

（検討委員会設置要綱第6条2項の規定により大山委員長に議長をお願いする。）

#### (1) 中部横断自動車道事業説明

- ・甲府河川国道事務所より、資料1に基づき、中部横断自動車道事業について説明。  
（委員長）対応方針の中で、景観・環境や、まちづくりに調和することに配慮しつつ積極的に対応することを述べて頂いている。

#### (2) ワークショップ実施方針（案）について

- ・事務局より、資料2に基づき、ワークショップ実施方針（案）について説明。  
（委員）今回のワークショップについて、他の道路事例があれば教えて欲しい。  
また、道の駅やパーキングエリアなどの施設は「道路構造のあり方」に含まれるのか。  
（事務局）道路事業での事例は見当たらないが、類似事例を探して参考にしていきたい。道の駅や休憩施設については、出された意見も踏まえながら整理していきたい。  
（委員）徳島県内で道路整備についてワークショップに取り組んだ事例がある。  
（委員）関係者ワークショップでまとめたものを、市民ワークショップで諮るというやり方が心配。また、事業主体はいつわかるのか。  
（事務局）無作為で参加して頂く市民ワークショップでは、議論するたたき台が必要であり、そのたたき台を関係者ワークショップで整理する。事業主体については想定の中で検討を進めていく。  
（委員）ワークショップの主旨に反する高速道路の問題などの意見が出た場合、

どう対応するのか。

(事務局) ワークショップは中部横断道の計画を議論する場ではない。市は、ルート帯が決定している前提で議論を進める。主旨に反する意見を言う発言者には参加を遠慮してもらう。

(委員) 関東小委員会の対応方針で示された「道路構造等の検討については、環境・景観に十分配慮した設計・施工とする」、「地域のまちづくりと高速道路整備が調和するように、地元の取組と連携し、地域との丁寧なコミュニケーションを図っていく」に応じてワークショップを実施するという理解で良いか。

(事務局) その通り。関東地方小委員会の対応方針そのものが、中部横断自動車道整備の早期整備に向けて進められる内容だと考えている。当然これに対し、北杜市として市民の声を届けるため、活用検討委員会でまとめていく。

(委員長) ワークショップで出た情報を丁寧に吸い上げることはとても重要。市民ワークショップの無作為抽出による参加は大丈夫か。

(事務局) 実施事例からは、大体5～6%の参加率。1,000人を無作為抽出し参加意思を確かめる。また、高校生枠を設けたいと考えている。

(委員長) 広報を用いて市民ワークショップへの関心を高めてはどうか。

(事務局) 早い段階で広報できるよう進めて行きたい。

(委員長) 地域資源については事務局で作業したものをたたき台としてワークショップで議論するという認識で良いか。

(事務局) 事前に支所等にヒアリングを実施し準備を進めている。

(委員) 市民ワークショップもファシリテーターにより行うのか。

(事務局) その通り。

(委員長) ファシリテーターはもう決まっているのか。

(事務局) まだ決まっていないが、ワークショップ等の経験が豊富で、地域の状況もある程度わかっている人をお願いしたい。

(委員長) テーブル毎にファシリテーターが付くのか。

(事務局) 総括するファシリテーターと、補助員がテーブルにつく形になると思う。

(委員長) なかなか公募してもらえないことも心配。各方面で若い人を紹介してもらうなど、ある程度の声かけが必要。

(委員) 高校生枠を設けるのであれば、意見が言える環境をワークショップの中で作って頂きたい。受験シーズンを避けるなど時期的な配慮もして欲しい。

(事務局) 高校生枠と表現したが、現在高校には学区がなく市内在住で、市外に通学している学生もいる。無作為抽出を基本とし、多くの応募を頂きたい。

(委員) 年配の方と高校生が一緒のテーブルでは意見を言えない状況になるかもしれない。例えば若い世代だけのグループを作って意見をもらうといった配慮をお願いしたい。

(事務局) 十分検討し進めていきたい。

(委員) 無作為抽出で活用検討委員会の委員が選ばれた場合どうするのか。

(事務局) その場合、ご辞退して頂きたい。活用検討委員会の委員は傍聴可能。ワークショップは自由な意見を言える場としたいため、非公開で実施。

(委員) 北杜市は大学と連携して地域づくりなどに取り組んでいる。そういったメンバーのテーブルを用意しても良いのではないか。

(事務局) 担当部署と相談して対応を検討する。

(委員長) 今年度は間に合わないかもしれないが、次年度に向けて検討してみてもどうか。

(事務局) 客観性、第三者の目という観点で考えていきたい。

### (3) ワークショップ等実施スケジュール (案) について

・事務局より、資料3に基づき、ワークショップ等実施スケジュール (案) について説明。

(委員長) スケジュールがタイトなのは環境影響評価のタイミングに間に合わせるということか。

(事務局) 環境アセスに入る前に先んずる形で市の意見を反映してもらいたいため。

(委員長) 環境影響評価は始まると1年以上かかる。その間、ワークショップは続けて、追加の意見を入れるということか。

(事務局) アセスに影響する道路プランを今年度、市民と行政が取り組むまちづくりについては次年度以降と考えている。

### (4) その他

(事務局) 次回活用検討委員会は、ワークショップを踏まえて開催予定とする。

□ 4 閉会 事務局

会議終了 午後3時15分